

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

(平成24年度事業)

事業の概要		17年度		根拠法令・規程等	医療法 備前市国民健康保険病院条例
事業開始年度					
大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問	担当課(室)
中項目	基本施策	02	健やかで生き生きしたまちづくり	合	職・氏名
小項目	施策	07	病院事業	先	電話
事務事業名	01	3病院運営事業			0869-64-3385
				このシート作成に要した時間	5.0 時間

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	出資者である市民	
目的(何のために)	備前市の病院事業を運営するにあたり、常に企業の経済性を発揮するとともに、安心・安全で地域に開かれた医療を提供して公共の福祉を増進するように努めるため。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民が安心して医療を受けられる体制とすることが第一義であり、安定的な経営を行うことによって、市民ニーズに沿った病院を、将来にわたり維持・存続させる。	

事業の実績			Do
目的を達成するための実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	備前市病院事業運営事業	3病院の運営を、より経営状況が優れ、安定したものとするために、備前市病院事業経営評価委員会等を開催して事業の点検を実施し、改革の方策について協議を重ねる。また、事務担当者の連絡会を開催し、連携を密にしていく。	

右欄の評価の説明

<妥当性評価>
経営評価委員会は、健全で持続可能な病院運営を行うに当たり、PDCAサイクルの中で、チェック機能として必要な委員会である。また、持続して病院事業を運営していくため、3病院間での課題の共有など、連携は不可欠である。

<効率性評価>
経営評価委員会は、病院外の有識者によって構成されるため、病院側の主観に左右されることなく、効率よく改革点をチェックすることができる。また、病院間で連携を密にし、経験や情報を共有することで、効率的な経営を行うことができる。

<有効性評価>
経営評価委員会における多様な意見によって、改革の方策を見出して行くことができる。また、病院間の連携を重ね、経験や情報を共有することで、経営改善につなげることができる。

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	直接事業費	千円	202	185	102	
	必要人員費	人件費	0.20人	2,481	0.16人	2,104
	事業費	計	2,683	2,289	3,243	
	国庫支出金	千円				
受益者負担						
繰入金						
市債						
その他()						
一般財源		2,683	2,289	3,243		
受益者負担比率	%	-	-	-		
結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績		
委員会及び連絡会開催回数	説明	経営評価委員会、病院事業幹部会議及び事務部連絡会開催回数				
結果指標量	回	17	18	16		
対前年比	%	-	94.1%	100.0%		
活動コスト	円	2,683,000	2,289,000	3,243,000		
単位当たりコスト		157,824	143,063	202,688		

事業の成果		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
成果指標名	年度	目標値(A)	100	100	100	100
決算における経常収支比率(病院事業合算)	実績値(B)	100.07	100.48	99.92	到達目標値	
	達成率(B/A)	100.07%	100.48%	99.92%	100	
	成果指標設定の考え方・式や説明					
経常収益/経常費用×100 「備前市病院事業改革プラン」に沿った業務内容の見直しとリンクさせるため、国がプラン中に設定している経営効率化の3指標 経常収支比率、職員給与費率、病床利用率の中から、経営状態を把握する上で、市民にも最もわかりやすい 経常収支比率を選択した。(各病院運営事業のシートで、各病院の経常収支比率を掲載)						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	市民ニーズ	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
有効性の評価	コスト	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	目的達成度			
市民参画度				

進行年度(H25年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	備前市病院事業経営評価委員会において、備前市病院事業改革プランの進捗状況について点検及び評価をするとともに、病院事業の経営に係る事項について調査及び検討を行い、人材確保、経費節減等、経営改善の充実を図っていく。また、病院間での連携を密にし、共同でできる事務の効率化を図る。						

総合評価		総合評価	B
経営評価委員会における病院改革プランの点検・評価結果を踏まえ、幹部会で方向性を明確にし、連絡会で事業の課題や実務面について連携を取っている。当市の病院事業を、安定して将来にわたり持続可能なものとしていくため、経営のチェック機能等として必要不可欠な事業である。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い	B

平成26年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	安定して良質な医療を提供できる基盤を構築するため、備前市病院事業経営評価委員会が備前市病院事業改革プランの進捗状況について点検・評価し、看護師等の人材の確保と収益性向上を目指す。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標に留意しながら

Action